

熊谷西ロータリークラブ会報

2009～10年度 R I テーマ THE FUTURE OF ROTARY IS IN YOUR HANDS



国際ロータリー 会長 ジョン ケニー
第2570地区ガバナー 加藤 玄 静

会長 田代充雄 会長エレクト 鯨井邦男 副会長 加藤睦夫
幹事 村山廣道 副幹事 堀越 真 SAA 毛利聡志
例会日/月曜日 12:30～13:30 毎月最終例会 18:30～19:30
例会場/レストラン アーク 2F 事務局/レストラン アーク 1F
TEL048-525-7907 FAX048-526-2471
HP: <http://www.kuma-west-rc.com> E-mail: post@kuma-west-rc.com

No. 5

第 1 5 6 4 回例会

(H 2 1 ・ 8 ・ 1 0)

司 会 加藤 S A A
点 鐘 田代会長
ソング 我らの生業

本日のテーマ

『「直実節」から考える熊谷教育の優位性』

(有)プロFDオフィス

荻野嘉彦様

来賓紹介

鯨井会長エレクト

荻野嘉彦様 (卓話講師) (有)プロFDオフィス

委員会報告

出席報告

田中委員

例会日	総数	出席免除	欠席者	出席率	マークアップ
8/10	26	9(4)	11	61.90%	2

ニコニコボックス委員会

ニコニコボックス拠金報告 田中委員

平成21年8月10日

	件数	金額
本日の報告	3件	3,000円
本年度累計	30件	41,000円



内容は2頁へ

田代会長 ①荻野さん、本日は卓話宜しくお願
い致します。楽しみにしております。

②昨日埼玉交響楽団のコンサートへ妻と行っ
て来ました。とても楽しく過ごせました。伊
藤朝子さんのコンサートミストレスがかっこ
よかったです。

加藤睦夫さん 酒井法子覚醒剤逮捕残念です。

参禅会の案内

浅井職業奉仕委員長

日 時 8月24日(月)
集合時間 AM6.30
会 場 高雲寺

『直実節』から考える熊谷教育の優位性

「熊谷の小学生は運動会で『直実節』を踊っている」

3〜4年前、この話を初めて聞いた時、熊谷の人々は「そこまで直実か」と驚きました。
(というより、その時点では、腹を抱えて笑っておりました)

今年5月、その見方が急変します。

上尾の小学校に通う我が子が、「島人(しまんちゅ)エイサー」なる沖縄の踊りを踊っていたからです。前年の運動会を確認すると「花笠音頭」。これは山形を代表する踊り。

子どもに地域DNAを残すには、小さい頃の踊りや音楽は最適な手法です。

静岡出身の私は、伊豆菰山の江川太郎左衛門作「農兵節」DNAがあります。幼少の頃、踊った感覚が今も身体に残っています。だからこそ自分の故郷を意識し、更に熊谷を含む他の地域性を大事にすることができます。

ところが、我が子はそれを育成する機会を与えられていないことに驚き、同時に熊谷では小学校で熊谷メンタリティーの伝承ができていることに、感動したのです。

その後、会う人、会う人に「子どもの頃、何を踊っていたか」を尋ねるようになりました。すると全県的に創作ダンスが多くなっていましたが、県北地域では、「秩父音頭+土地の踊り」のパターンが見られました。更に「直実節」を愚直なまでに継承する熊谷は、その中でも特に際立っています。とても素晴らしいことです。

ちなみに、メンタリティー育成という観点からは、熊谷市歌も注目です。JR熊谷駅・籠原駅では、平成19年に制定されたこの歌が電車の出発時に流れています。地道な取り組みですが、こちらにも注目しております。

ところで、県南の子どもたちは、私立中学受験を目指し、進学塾に行く機会が増えています。ある進学塾は、JR線の川口・南浦和・大宮・上尾・久喜、東武東上線の志木・川越、西武池袋線の所沢・入間、東武伊勢崎線の草加・新越谷・春日部。ほとんどがR16以南の地域です。

塾で頭のトレーニングはできますが、DNA(精神)の継承はできません。県南の教育と熊谷の教育、果たしてどちらが優位でしょうか？

「熊谷高校を応援する有志の会」があるようです。近年、熊高に関してはいろいろな意見があるようですが、「熊高は買い」が私の結論です。過去優秀な卒業生を生み出した熊高は、大手企業・公官庁に幾多の人材を供給しております。今の熊高生が大学等を経由して就職する際、そこには多くの熊高OBがいます。最近やや熊高経由での新入社員が減っているかもしれませんが、それは逆に大チャンス。貴重な熊高経由の新人さんを、会社でのポジションが高くなった熊高OBたちが待っているのです。企業に入った後、熊高卒業生の新人さんはキャリアを有利に展開する可能性大です。

「大学進学実績だけでなく、その先の就職、社会人生活を考えたら熊高は買い」です。

平成16年12月から日本は人口減少社会になりました。熊谷も「いかに人口を維持するか」の時代に入っています。全く熊谷を知らない人間が、移住する確率は低いでしょう。「過去に熊谷で育ち、全国に散らばった人々をいかに戻すか」。これが熊谷の勢いを維持するカギであり、そのキーワードは「直実節」です。熊谷DNAを持つ熊谷市外在住者との融合こそ、今後の熊谷が目指すべき道だと思います。